

ぶんおう

文応元年（一二六〇）書写の

奥書をもつ『覚源抄』

かくげんしよう

令和元年度、和歌山県立文書館では、考古学研究者で県内の自治体史編纂にも携わった故巽三郎氏たつみさぶろうの旧蔵古文書約二〇〇点の寄贈を受けました。

今回ご紹介する『覚源抄』はそのうちのひとつで、鎌倉時代前期に成立した仏書です。本書は、真言密教の事相じそう（実践）と教相きょうそう（理論）について、高野山検校を務めた覚海けんぎようと、根来寺を開山した覚鑊かくばんの弟子融源ゆうげんの口説をまとめたもので、写本で伝えられています。

展示している『覚源抄』の奥書には、文応元年（一一二六〇）七月から八月にかけて、高さんまいじゅいん野山三昧寿院で、忍空にんくうという人物が書写した、とあります。

展示物は、文応元年の写本をさらに書き写したものですが、この年紀は現在知られている写本のうちもっとも古く、原本に近い内容が記されていると推測されます。

『和歌山県立文書館紀要』第二十四号では、奥書の詳細な検討、他写本との内容の比較を行い、当館所蔵本の特徴などについてふれています。

ご自由にお取りのうえ、ぜひご覧ください。